

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 松谷 敬一》

2022年
7月号
No. 23

図書館友の会岸和田再発見教室 公開講演会

久米田寺・星まつりの背景

—中世の星辰信仰と密教—

講師：細田 慈人 氏

泉佐野市立歴史館いずみさの 前学芸員



久米田寺・金堂

古代・中世の人々は、日月星に神仏の姿をかさねて信仰し、天体现象は吉凶禍福を象徴・予見するものとして認識しました。

当時の王権では鎮護国家・吉凶禍福の解除などを目的として神祇信仰・陰陽道・密教などによる星辰信仰に基づく祈禱祭祀が行われ、次第に祭祀を行う目的が拡大されました。

密教と修験道、陰陽道を繋いだ星辰信仰とはなにか、どのような意味があるのか、星辰信仰が与えた影響とはなにかについて考えます。

日時 8月14日(日) 午後2時～4時30分 《参加費無料》

場所 岸和田市立八木市民センター(池尻町) 2階 講座室1

定員 80名 7月15日(金)10時より岸和田市立図書館(本館)で受付。

直接または電話(072-422-2142)でお申し込みを。(申込み先着順)

【主催】 岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会・岸和田市立図書館

【後援】 池尻町町会

図書館友の会 総会 & 公開講演会

講演 食べるコラーゲンは効果があるか？ コラーゲンペプチドの生理機能

「図書館友の会」は、6月17日に図書館本館3階自習室で総会を開き、2021年度の活動報告・決算報告、2022年度の活動計画・予算案を提案。それぞれ了承されました。

総会後には、杉原富人氏（図書館友の会副会長、学術博士）が講演。24人の参加者が熱心に聴き入りました。

内容が専門的だったので、参加者からは「専門用語が多くて理解できないところがあった」「少し専門的でむつかしかった」という声もありましたが、「以前より疑問に思っていたコラーゲンの機能について、わかりやすくお話を伺えて大変勉強になりました。」

「タンパク質、コラーゲン、コラーゲンペプチド、知っているようで知らなかったことが少し理解できた。」「わかりやすく、おもしろかった」等の感想が寄せられました。

講師（杉原富人氏）からの紹介

講演ではまず、「食べるコラーゲン」はゼラチンを酵素で分解したコラーゲンペプチドであり、これの摂食による美肌、床ずれ治癒促進および変形性関節症の改善効果に関するヒト臨床試験結果を紹介しました。次に、駅伝選手での膝関節痛改善効果に関する臨床試験結果を紹介し、関節軟骨細胞へコラーゲンペプチドが作用するメカニズム解明の到達点を説明しました。

ここで、コラーゲンペプチドによるこれらの効果は、「コラーゲンを構成するアミノ酸が吸収され、体内でコラーゲンに成る」との説明は誤りであり、そうではなく、小腸から吸収された小さなペプチドが細胞に直接シグナルとして作用することを強調しました。すなわち、摂食後のコラーゲンペプチドは、50%以上がアミノ酸まで分解されずに、小さなペプチドの状態で腸管から吸収され、血中に移行します。この吸収された小さなペプチド（例えば Pro-Hyp）が直接軟骨細胞に作用し、細胞分化のシグナルとして生理機能を発揮することがポイントである、と解説しました。

最後に、他の食品素材にないコラーゲンペプチドの独自性に関しては、損傷した部位で生成される内因性コラーゲン代謝物（内因性コラーゲンペプチド）が発揮する生理機能が「自然治癒力」の実体の一部であり、コラーゲンペプチドの独自性であるとの推察を紹介しました。こののち、参加者の皆さんと議論しました。

講演会参加者の感想

コラーゲンという言葉・効能については、テレビの中でのコラーゲン製品の宣伝とか、薬局の棚に置いてある薬の効能書きとかで、何となく体にとっては必要な栄養素？なんだからにしか思っていないませんでした。が、この講演をお聞きしてコラーゲンペプチドがこれほどの機能・効果をもっていることを教えていただき、認識を新たにいたしました。

コラーゲンペプチドのまず美肌効果・効能については、保湿性、弾力性の増加、肌荒れの減少と三拍子揃っているそうです。これは特に女性にとっては垂涎の効能ではないでしょうか。また、褥瘡についても、褥瘡発生後、それに有効な栄養素としてコラーゲンペプチドが臨床試験の結果有意に治癒を促進することがわかっているようです。

運動選手の膝関節へのコラーゲンペプチドの臨床試験を見ると、継続的な摂取はひざ痛の発生悪化を抑制する可能性を持っているという。

このように、いろいろな機能、効能を持っているコラーゲンの産生には大量の酸素の供給が必要のため、地球で初めて誕生したのは原生代後期の全地球凍結後（6億～8億年前）と教えていただきました。

単細胞生物が急激な地球環境の変動の影響によりコラーゲンをつくり出すことに成功し、それが細胞同士の接着に利用され多細胞化が促進し、今日の多細胞生物へと進化したものだとなりました。

食べるコラーゲンの機能・効能がこのように他にわたっていることを学びましたので、これからは意識してコラーゲン摂取を心がけてまいります。

（図書館友の会再発見教室 橋下正彦）

地名の秘密

㉑ 一雨(いちぶり)

雨がよく降る土地だったのか？

古座川（こざがわ）町は、和歌山県南東部にあり町の最北端にそびえる紀伊半島南部の最高峰、大塔山に源を発する古座川が町の中央を流れている。この古座川の中流左岸にこの地名がある。正式には和歌山県東牟婁郡古座川町一雨（いちぶり）。千番号も649-4232。江戸時代から明治の半ばまでは一雨村として存在、現在は一雨として古座川町の大字名である。「一雨（いちぶり）」とは趣のある地名、読み方も変わっている。

ヒトアメ、イチアメでなくイチブリと読む。地名の由来は、古座川の流れが石に当たり、跳ね返ってしぶきが上がる様子を見て以前は石舐（いしぶれ）と書いた。「続風土記」には、古座川に水が石に触れることに困むといい、「石舐の訛りで一雨は仮字なり」とある。ブリに「雨」の字を当てたのは、雨はふつうフル（降る）とあらわされるから。「一雨降（ひとあめふる）という気象地名）。水が岩石に触れるのは当たり前のことだが、古座川には、大きな岩が多い。大雨の時など、大きな岩まで水がきて、しぶきが上がるのだろう。この地名より1km上流に、高さ100m幅500mにも及ぶ巨大な一枚岩が聳え立っている。これは国の天然記念物に指定され古座川町の観光名所になっており、訪れた人も多いのでは。私も訪れたことがある。

【参考文献】

『日本全国・地名の秘密』 『47都道府県地名の謎と歴史』 「古座川町観光ガイド」

【文責】 文章教室 浦田榮二

2022年 友の会「文学歴史散歩」(バスツアー)

みなかた くまぐす 南方 熊楠 記念館 (和歌山県白浜町) を訪れます



南方熊楠記念館入口

実施予定日 11月9日(水)

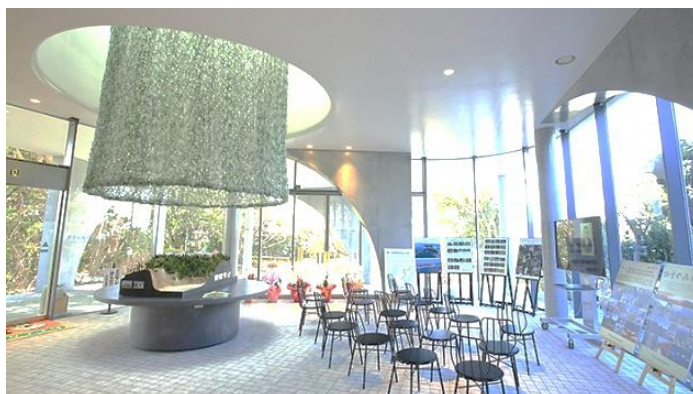
南方熊楠は、和歌山県が生んだ博物学の巨星。植物学・菌類学者としてのみならず、民俗学の創始者、

19才から14年間アメリカ、イギリスなどへ海外遊学、10数ヶ国語を自由に使いこなし、国内外に多くの論文を発表し、日本に「ミナカタ」ありと世界の学者を振り向かせました。天文学、鉱物学、宗教学などにも多くの足跡をのこしています。

没後、遺族からそのいくつかの資料の寄贈を受け、南方熊楠の遺した偉大な業績と遺徳をしのびその文献、標本類、遺品等を永久保存し、一般に公開するとともに博物学の巨星を後世に伝え、学術振興と文化の進展を目的として昭和40年4月に開館しました。

また、熊楠が昭和天皇に御進講したことで有名な「粘菌(変形菌)」を顕微鏡でご覧いただけます。

生きた粘菌を常時見られるのはここだけです。さらに屋上から360度の展望は素晴らしく、白浜ではぜひ見ておきたい隠れたスポットです。



記念館エントランス

※ 詳細は「図書館友の会ニュース」10月号でお知らせします。

あなたも図書館友の会に入りませんか

岸和田市図書館友の会は、会員相互の交流と親睦を図りながら、図書館と協力し合って読書や趣味の活動を広げる会。会員の皆さんの会費(年会費:1,000円)で自主的に運営しています。講演会や読書会、文学歴史散歩(バスツアー)など、会員が意見やアイデアを出し合っており、いろいろな催しを企画・実施…。また、「文章」「詩」「短歌」「俳句」「岸和田再発見」などの各教室なども開いています。(5つの教室に興味があれば、見学参加は大歓迎です)

- 会員は「友の会」が行う文学歴史散歩や講演会・公開講座などに優先的に参加できます。また、各教室に参加されない方には「友の会ニュース」を郵送しています。
- 新しく加入される皆さん方で、読書会や各種教室を新たに開催されるのも大歓迎。多彩で魅力ある図書館活動を、いっしょに広げていきましょう。